

2022年度 学校関係者評価委員会の総合的な評価

学校関係者評価委員 片村優美 井上薫 高橋徳庫 安田光則

・『ゆめイク』をテーマに、廃品を活用して行われたこはんまつりについては、上からたくさん吊り下げられていた子どもたちの個性あふれる宇宙人が印象的だった。指示された作り方で同じものが量産されるのではなく、一人ひとりの宇宙人を、ある部分では不器用ながらも自分のイメージを組み立てていったのだろうと想像できた。それら、一人ひとりの個性が「宇宙空間」に見立てた新しい園舎に仲良く飛び回っているようにも感じられた。

・年長クラスの「宇宙人を探せ」は一つひとつの作品に個性が溢れていました。廃品を使ってテーマに合わせた宇宙人を作成するのは、想像力や集中力など様々な力を養える上、SDGs の取り組みとしても素晴らしいと思う。

・こはんまつりの時、牛乳パックを中心に作られた宇宙船で、男の子がちょっと緊張しながらも自慢げに立派に案内してくれたことが印象に残っている。子どもたち一人ひとりが興味をもち、自分たちの発想から、主体的に取り組む姿が見られた。

・こはんまつりの影絵の説明役の子は少し緊張しながらも、影絵の操作は良かった。リアルタイムで演じる大役を乗り切った経験は次の別な機会に神様が活かして下さると思う。ゲームや展示物の説明をする姿を見て、主体的に取り組んでいなければ難しいことだと思った。

・子どもたちへの言葉がけはとても丁寧で、保護者等への態度も礼儀正しいと感じている。

・こはんまつりでは自分の品物が売り切れた子は他のパートに回るなど、声掛けを行っているようだった。また、影絵のように園舎の奥で行っていたものは、声掛けをして頂けたことで気づくことができ、良かった。

・これまでのこはんまつりでも、一つのテーマにいくつもの角度から取り組みを重ね、園のみんなで豊かなワールドを作り上げてきたこと、毎回、新たな試みに挑み続けている姿勢に敬服する。なお、コロナウイルスの影響で、取り組みの方法にもいろいろ制約があっただろうとも思う。

・新しい園舎の2階ホールの使い方について、日常的に日当たりの良い子どもたちの遊び場を確保しながら、こはんまつりでどう用いることができるか、新たなアイデアが示されるように願う。

・年間を通して30を超える研修がなされ、そのことが、普段の保育のカリキュラムの中に生かされて様々な活動につながっている。

・自分の子どもを通わせた保護者としても、子どもが楽しく通い様々な経験をすることができ感謝している。給食は幼稚園という集団の中で友だちと一緒に食べることで、家では食べることができないようなものでも、食べることができているので、通わせて良かった。

・心のこもった手作りおやつが提供されて、子どもの心の成長のためには良い。

・3号認定の小さな子どもたちなど、年齢にあった豊かな保育を展開して欲しい。